

私とSDGs

琉大でSDGsをキーワードに活躍する学生と教員。彼らの思いとは？

エコキャン×SDGs



〈総合環境学副専攻〉
国際地域創造学部
准教授
大島 順子

「この島ですっと生きていくためには？」を身近なキャンパスから考える。
環境問題は自然だけでなく、人間社会、社会活動など、広く環境の意味を捉えた上で地球規模の問題として解決策を考えるべきです。「この島ですっと生きていくには？」を学生たちと考え、色々取り組んでいます。琉大の学部を超えた横断的な学びを経験した学生たちに、私も触発されていますね。

幅広い視点からの活動を自分から。

環境問題やボランティアに以前から興味があったので、琉大の環境対策やエコキャンを知り、参加することにしました。エコキャンでは活動の際にSDGsとの関連を意識し、幅広い視点から活動を行っています。私は以前は一参加者でしたが、今では自分で企画して周りを巻き込み、一緒に活動しています。

農学部
地域農業工学科 2年
玉城 可奈恵さん



リサイクルと地域貢献をつなぐ。

最初は副専攻の単位取得だけのつもりでしたが、結局ずっと続けることに(笑)。一番力を入れたのがリリパック。回収率を上げるためにMESHサポートに寄付することになりました。リサイクル、地域貢献の両方が達成でき、大学という小さな社会ではありますが、僕の理想が実現できたかなと思っています。

法文学部
人間科学科 2年
エコロジカル・キャンパス
学生委員会
幸地 佑朔さん



エコキャンの活動はこちら



<https://ecocan-ryukyu.amebaownd.com/>

※リリパック…お弁当の容器。表面のフィルムだけがゴミとなり、容器は再利用可能。琉大生協のお弁当容器にも使われています。
※MESHサポート…MESH飛行機やヘリにて、離島・僻地の医療格差改善のための南西諸島全域の医療活動に取り組むNPO法人。

地域創生×SDGs



〈地域創生副専攻〉
地域連携推進機構
准教授
小島 肇

地域と行政と企業と、そして大学をアジャストする。

以前、役所にいたときから地域問題に関心があり、今は琉大の内側からアプローチしています。昔一緒に仕事をしていた方と今も繋がっていて、行政や企業のニーズをもわかるので、どのような形でアジャストしていくかを課題にしています。その最初のちょっとした調整や機会づくりなどをお手伝いしていきたいです。

今できることを考え、大学に留まらない活動を。

沖縄のことを学ぶために副専攻を履修しました。そこで色々な自治体や企業の取り組み、実際に地域で熱い思いを持って活動している人の存在を知りました。自分が今何ができるのかと考え、大学の外の事業に参加し、その中で少しずつステップアップし、どんどん大学の外に飛び出して活動しています。

法文学部 4年
人間科学科
金城 愛弥さん



グローバル津梁×SDGs



〈グローバル津梁プログラム副専攻〉
国際地域創造学部
教授
石川 隆士

SDGsを通して新しいリーダーを育てる。

グローバル副専攻では17のSDGsを個別に追求するのではなく、全体を見渡し複合的に考える力を身につけたリーダーを育成します。例えばコロナ禍における経済と公衆衛生のように、それぞれは人類のウェルビーイング(Well-Being)を目指すものであっても、互いに対立をする要素が少なくありません。そうした場合アクセルとブレーキを使い分けるシステム思考が必要となってきます。このように複合的な問題のアプローチを細分化し、それを組み合わせで最善の結果を導くリーダーが必要なのです。

ハルトプライズを通して学生に挑戦の機会を。

タイに留学中に、学んだものをアウトプットすることを学びました。その中で、日本にはまだ普及していなかったハルトプライズを知り、琉大に持ってきました。新型コロナの状況下で、みんなが英語を使って社会企業について考える場所を作りたい、沖縄のすべての学生に平等で挑戦できる機会を作りたいと思っています。

総合社会システム学科 4年
ハルトプライズ
琉球大学代表
法文学部
銘苅 隆磨さん



※ハルトプライズ…ハルトプライズ財団が主催する世界最大の学生起業アイデアコンペ

質の高い議論を日本でも。

新型コロナで海外インターンシップから急に帰国することになり、急にやる事がなくなってポカンとしていました。その時にハルトプライズのことを知りました。日本にも、インターンシップ中に参加した、質の高い議論をする場が欲しいと思っていました。今は運営と一参加者、両方の立場を楽しんでいます。

観光産業科学部
観光科学科 3年
知念 杏珠さん



多様な人が1つのゴールに向かう楽しさ。

昨年5月の緊急事態宣言下で、モチベーションの維持が難しくなってきた時にハルトプライズに参加しました。そこには学部もバックグラウンドも出身・居住国も全然違う人など多様性にあふれるコミュニティができていて、その人達が1つのゴールに向かって違う見解から攻めていくのがとても面白いです。

理学部
海洋自然学科 4年
高橋 りなさん



琉大でSDGs

